

令和7年度 住吉第一中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【＝Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)			平均IRTスコア
			国語	数学	国語	数学		
3 年 4月17日	学校	97	54	50	6.3	8.9	学校	489
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年 9月2日	学校	94	66.7	55.2	56.8	54.2	65.7	5.1	4.6	9.1	8.0	3.3
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	61.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 住吉第一中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞令和6年度と令和7年度の比較より

平均正答率:56% → 54%(▲2pt)、全国との差:▲2.1pt → ▲0.3pt(縮小)。
無解答率:3.5% → 6.3%(+2.8pt)、全国との差:▲0.4pt → ▲0.4pt(全国より低いが増加)。
成果:全国との差はほぼ解消。
課題:無解答率が大幅増加 → 記述問題対応力・時間配分に課題。

＜数学＞令和6年度と令和7年度の比較より

平均正答率:50% → 50%(横ばい)、全国との差:▲2.5pt → +1.7pt(全国を上回る)。
無解答率:10.9% → 8.9%(▲2pt)、全国との差:▲0.4pt → ▲1.7pt(改善)。
成果:全国平均を上回り、無解答率も改善。
課題:「関数」領域の定着度は不明 → 表現変換や文章題対応をさらに強化。

＜理科＞令和7年度のけっかより

平均IRTスコア:全国503 → 学校489(▲14pt)、大阪市と同水準。
成果:市平均並み。
課題:全国との差が大きい → 基礎項目の正答率底上げが必要。

【今後に向けて】

国語:記述力強化と無解答率改善

方策:短作文(要旨→根拠→結論)などの取り組みを意識する。

数学:「関数」領域の表現変換習慣化

方策:表↔式↔グラフの3往復を意識した授業づくりと、文章題は数量関係→式化→グラフ読み取りを継続して取り組む。

理科:基礎概念の定着とIRTスコア向上

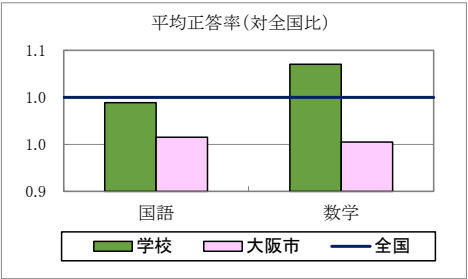
方策:「用語→原理→現象説明」を意識した授業づくりと観察記録などによる観る目の要請を心がける。

令和7年度 住吉第一中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

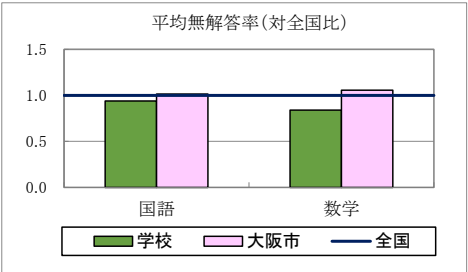
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	54	50
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

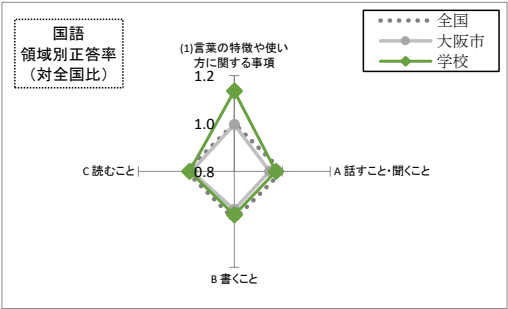
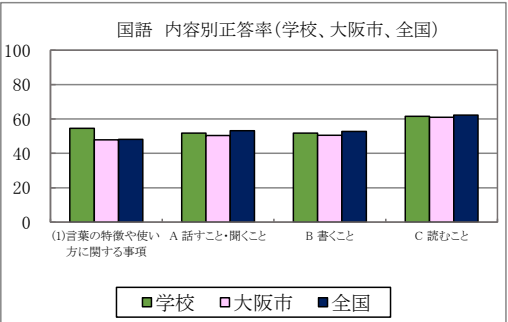


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	6.3	8.9
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6



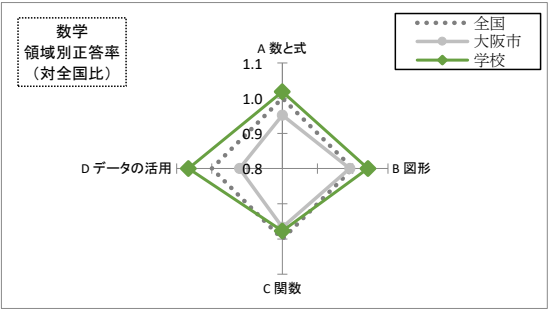
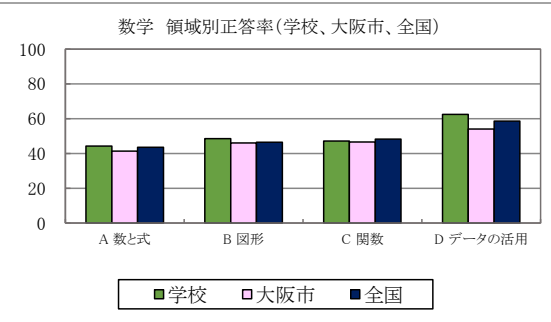
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	54.6	47.9	48.1
(2)情報の扱い方にに関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	51.8	50.4	53.2
B 書くこと	5	51.8	50.6	52.8
C 読むこと	3	61.5	61.0	62.3



【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	44.3	41.4	43.5
B 図形	4	48.5	46.1	46.5
C 関数	3	47.1	46.6	48.2
D データの活用	3	62.5	54.0	58.6

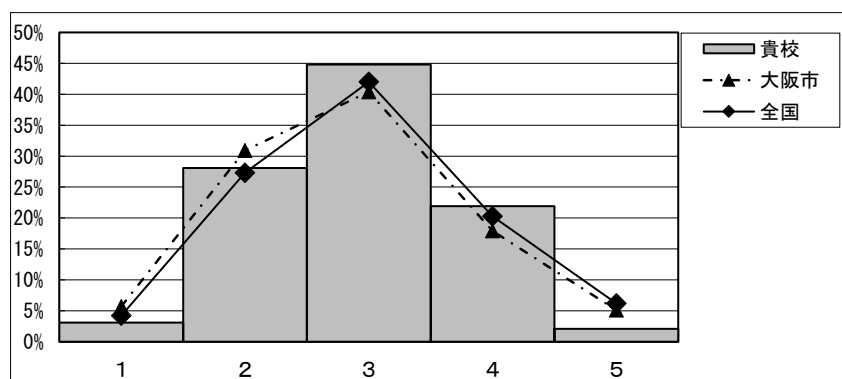
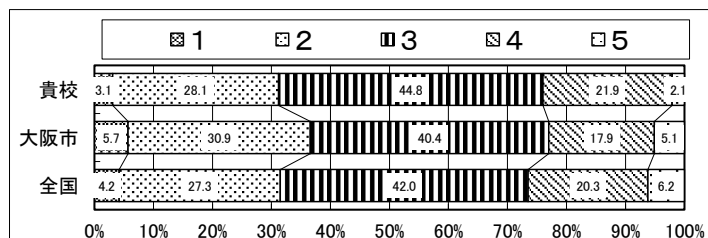


令和7年度 住吉第一中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	489
大阪市	489
全国	503



令和7年度 住吉第一中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より

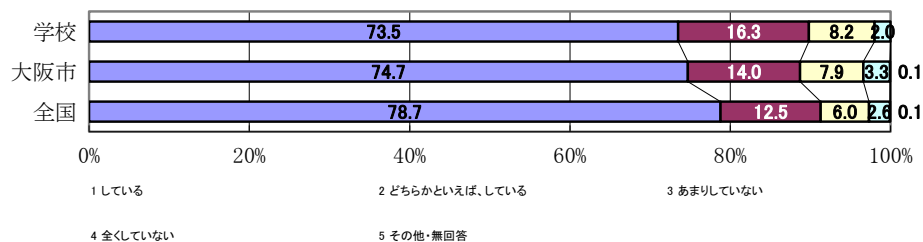
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

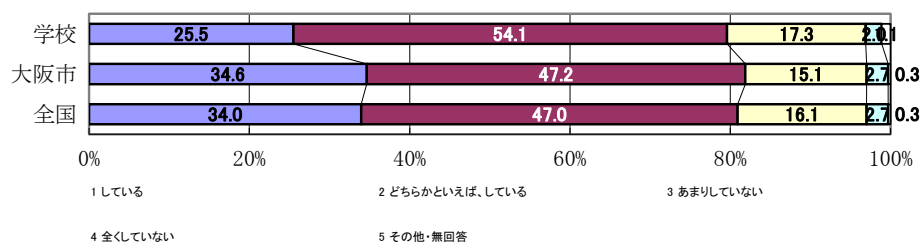
1

朝食を毎日食べていますか



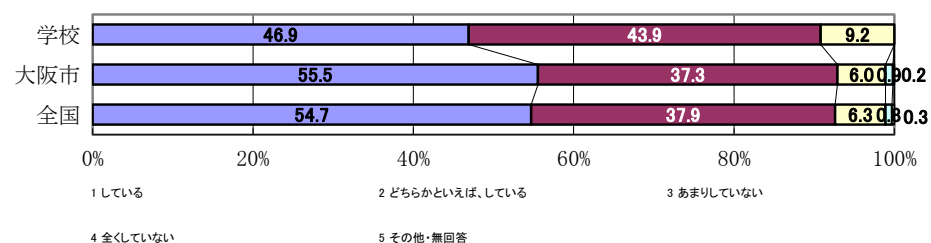
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



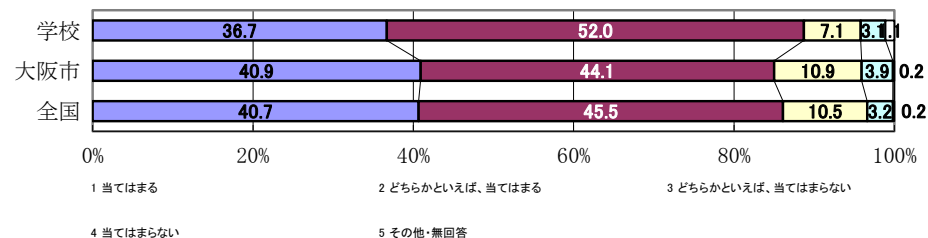
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



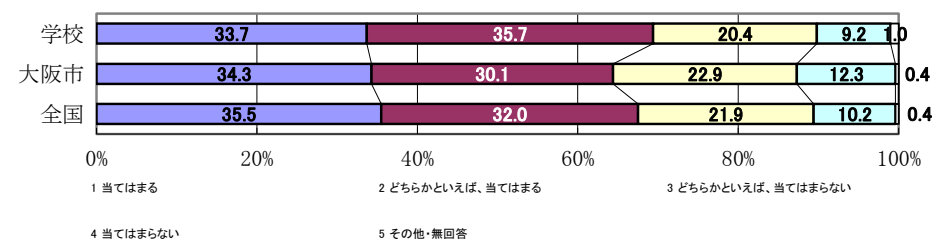
5

自分には、よいところがあると思いますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



令和7年度 住吉第一中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

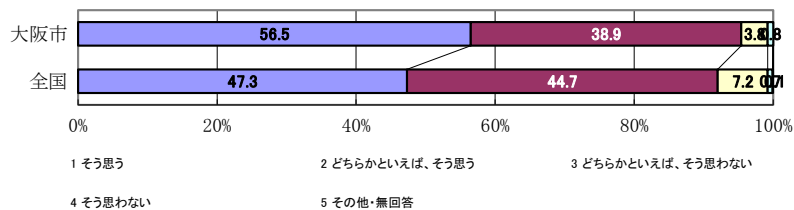
質問番号

質問事項

8

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

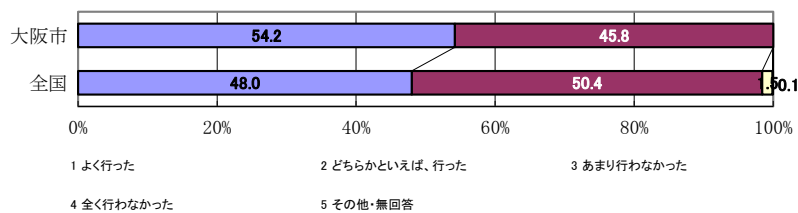
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



9

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

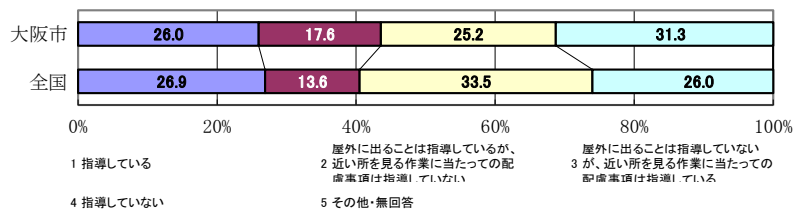
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



10

近視の予防の一環として、学校の休み時間(昼休みを含む)や放課後などの時間(部活動の朝練・放課後練習を含む)に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たったの配慮事項(対象から30cm以上目を離す、30分に1回は目を休めるなど)について指導していますか

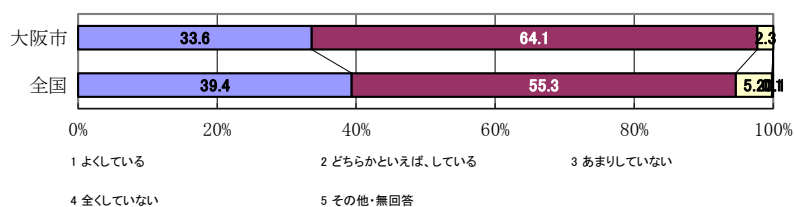
学校 「屋外に出ることは指導しているが、近い所を見る作業に当たったの配慮事項は指導」を選択



17

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

